シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子どもの食と栄養Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの食と栄養Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	子どもの食と栄養　改訂第3版		出版社	中山書店	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基礎となる為食を通じた子どもの健全な保育に携わる知識を身につける。		
到達目標	１．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ２．関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	小田原短期大学関連科目		
関連科目	子どもの食と栄養Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	喜多野　直子	実務経験	○
実務内容	病院にて病院栄養士として2年間勤務、特定保健指導員として3年間勤務した実務経験を基に、小児期の食生活に関する発展的内容について教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	子どもの食と栄養Ⅰの復習・振り返り
2	第４章：食育の基本と実践①	食育基本法の概要
3	第４章：食育の基本と実践②	食育基本法の目的・推進
4	第４章：食育の基本と実践③	食育推進基本計画
5	第４章：食育の基本と実践④	食育推進基本計画の実施
6	第４章：食育の基本と実践⑤	保育所における食育の推進
7	第４章：食育の基本と実践⑥	保育所における食育の推進の計画・実施・評価
8	第４章：食育の基本と実践⑦	食育活動の実践
9	第４章：食育の基本と実践⑧	保護者への情報提供

10	第４章：食育の基本と実践⑨	学校給食の現状
11	第４章：食育の基本と実践⑩	栄養教諭・バランスガイド
12	第４章：食育の基本と実践⑪	理解度確認
13	第４章：食育の基本と実践⑫	食育媒体に触れる
14	第５章：児童福祉施設や家庭①	児童福祉施設における食に関する指針
15	第５章：児童福祉施設や家庭②	児童福祉施設の食事
16	第５章：児童福祉施設や家庭③	保育所における保護者支援と地域との連携
17	第６章：感染症と食中毒①	感染症と食中毒の違い
18	第６章：感染症と食中毒②	食中毒の発生状況と予防策
19	第６章：感染症と食中毒③	施設における衛生管理
20	第６章：感染症と食中毒④	理解度確認
21	第７章；特別な配慮を要する 子どもの食と栄養①	食物アレルギー
22	第７章；特別な配慮を要する 子どもの食と栄養②	アレルギー疾患への対応
23	第７章；特別な配慮を要する 子どもの食と栄養③	鉄欠乏性貧血・糖尿病・発熱・体調不良
24	第７章；特別な配慮を要する 子どもの食と栄養④	急性胃腸炎・便秘
25	第７章；特別な配慮を要する 子どもの食と栄養⑤	肥満・やせ・障がい児
26	第７章；特別な配慮を要する 子どもの食と栄養⑥	理解度確認
27	第７章；特別な配慮を要する 子どもの食と栄養⑦	７章のまとめ①特別な配慮を要する子どもへの具体的対応を学ぶ。
28	第７章；特別な配慮を要する 子どもの食と栄養⑧	７章のまとめ②病気時の食事の実際・誤嚥しやすい食材について触れる。
29	まとめ①	①保護者対応
30	まとめ②	②総復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	モチベーション・マネジメント		
必修選択	選択	(学則表記)	モチベーション・マネジメント		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	15
使用教材	ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｴﾝﾄﾘｰｺｰｽﾜｰｸﾌﾞｯｸ 公認ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ・ﾏﾈｰｼﾞｬｰ資格ｴﾝﾄﾘｰｺｰｽ（ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ）		出版社	一般社団法人 モチベーションマネジメント協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	学校や社会でおこる「不都合な現実」の乗り越え方を学ぶ
到達目標	「公認モチベーション・マネジャー資格　エントリーコース」が取得できる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	公認モチベーション・マネジャー資格　エントリーコース
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	山口　沙織
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	モチベーションを学ぶとは？	未来デザインプログラムⅡの趣旨理解(モチベーションションタイプ)
2	実習に行ってみよう	「実習に行きたくない」時の乗り越え方(選択理論)
3	何度でもチャレンジしてみよう	「実習で何度もやり直しをしなくてはならない」時の乗り越え方(自己効力感①)
4	保育観のズレを乗り越えよう	「保育観の違い」を感じた時の乗り越え方(フィット理論)
5	結果を受け止めよう	「実習で厳しい評価を受けた」時の乗り越え方(チャンスフォーカス)
6	働くということとは？	「働く意味がみえなくなった」時の乗り越え方(欲求階層説)
7	理論を知る意味（復習）	モチベーション理論、未来デザインプログラムⅡの前半で学んだことの振り返り
8	不安を克服するには？	「就職活動に不安で踏み出せない」時の乗り越え方(自己効力感②)
9	周囲との距離を縮めよう	「周囲となじめない」時の乗り越え方(ジョハリの窓①)

10	先輩と良い関係を築くためには？①	「先輩とうまくいかない①」時の乗り越え方(ジョハリの窓②)
11	苦手なことと向き合おう	「苦手なことと向き合えない」時の乗り越え方(目標設定理論)
12	やる気を高めるポイントとは？	「イベントにやる気が出ない」時の乗り越え方(期待理論)
13	未来デザインプログラムⅡの振り返り&テスト	モチベーション理論、未来デザインプログラムⅡで学んだことの復習（知識確認）
14	先輩と良い関係を築くためには？②	「先輩とうまくいかない②」時の乗り越え方(タイムスイッチ)
15	総まとめ	全体のまとめ＆ハンドブックについての説明

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	体育（講義）		
必修選択	選択	（学則表記）	体育（講義）		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	15
使用教材	これからの健康とスポーツの科学		出版社	講談社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①こどもから大人までの健康や生活習慣について学び、理解する。 ②健康と運動の関連性について学び、理解する。
到達目標	①自分自身の健康や生活の不安・問題点を見つめ直し、生活習慣を整えられるようになる。 ②健康と運動、健康と身体の関連を理解し、健康管理、運動の必要性を説明できるようになる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	内藤　清志
実務経験	○
実務内容	保育園で運動指導者として1年間勤務、サッカークラブでコーチとして8年間勤務した実務経験を基に、健康と運動について教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	ライフスタイルと健康	生活スタイルと健康との関連について
3	生活習慣病について	生活習慣病について
4	肥満について	肥満について
5	骨と運動	骨の役割と運動について
6	加齢について	加齢と運動の重要性について
7	子どもの体力と運動	子どもの体力・運動能力について
8	色々な環境下での安全な運動	色々な環境下で安全に運動を行う際の留意点について
9	ストレスと運動	ストレスをはじめ、運動が心や脳に与える影響について

10	振り返り①	2回～4回の学習内容を振り返り、レポートにまとめる/単元毎の振り返り
11	振り返り②	5回～7回の学習内容を振り返り、レポートにまとめる/単元毎の振り返り
12	振り返り③	8回～9回の学習内容を振り返り、レポートにまとめる/単元毎の振り返り
13	子どもの遊びと生活	現在の子どもの遊びと生活について
14	まとめ①	学習内容の理解度を確認する/全体振り返り
15	まとめ②	学習内容の振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	子ども家庭福祉		
必修選択	選択	（学則表記）	子ども家庭福祉		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	『児童の福祉を支える 子ども家庭福祉』＜第２版＞吉田眞理		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史を知り、現代の制度や実施体系について理解する。子ども家庭福祉の現状について理解を深めながら、子どもの人権擁護についても考察していく。最後に今後の展開について解説し、学生とともに考える。
到達目標	①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ②子どもの人権擁護について理解する。 ③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ④子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 ⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	實方　徹平	実務経験	○
実務内容	認可保育所(公立･私立･夜間保育所)にて保育士として7年6か月勤務、放課後児童クラブにて児童指導員として6か月勤務、児童厚生施設の主に日祝に児童厚生員として10年間勤務、社会福祉法人にて本部職員として新規施設整備･運営を4年間サポートした実務経験を基に、現代社会における家庭福祉について体系的に教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	1年間の授業の流れをつかむ。
2	子ども家庭福祉の理念と概念①	児童福祉法の理念と事例を通して概念を理解する。
3	子ども家庭福祉の理念と概念②	子ども家庭福祉の課題・実践対象・方法について理解する。
4	子ども家庭福祉の歴史的変遷	海外と我が国の歴史的変遷を理解する。我が国の先駆者について知る。
5	現代社会と子ども家庭福祉	我が国の世帯構造の変化などを統計上確認し、家族のありようが子どもの育ちに影響することを理解する。
6	子どもの人権擁護①	子どもの人権擁護の歴史的変遷や児童憲章を理解する。

7	子どもの人権擁護②	児童の権利に関する条約の内容について理解する。
8	子どもの人権擁護③	我が国の子どもの権利を守るしくみ、第三者評価事業・施設内での苦情解決のしくみなどを理解する。
9	子ども家庭福祉の制度と法体系①	保育所を支える法体系、保育所設備運営基準、児童福祉法の枠組みについて理解する。
10	子ども家庭福祉の制度と法体系②	児童虐待防止法による虐待の定義、予防及び早期発見の役割、行政の責任と市民の義務について理解する。
11	子ども家庭福祉の制度と法体系③	次世代育成対策推進法、その他の関係法について理解する。
12	子ども家庭福祉行財政と実施機関	厚生労働省、地方自治体、児童相談所の機能、要保護児童対策地域協議会の役割について理解する。
13	児童福祉施設等①	児童福祉施設：乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設の概要や入所理由、施設専門職等を理解する。
14	児童福祉施設等②	児童福祉施設：障害児施設の枠組み、障害児入所施設、障害児通所施設（児童発達支援センター）の概要について理解する。
15	復習とまとめ	前期のまとめと振り返りを行う。
16	児童福祉施設等③	地域に根ざした施設の役割として子育て短期支援事業を理解する。また児童福祉施設等の費用負担について理解する。
17	子ども家庭福祉の専門職・実施者	養護系施設、障害児施設、保育所で働く人たちを理解する。
18	住民による子ども家庭福祉活動	住民による子ども家庭福祉活動、家庭養育（里親・ファミリーホーム）、児童委員・主任児童委員について理解する。
19	子ども家庭福祉の現状と課題	少子化対策の流れを知る。子ども子育て支援新制度の社会的背景・ポイント、地域子育て支援事業について理解する。
20	母子保健と児童の健全育成	保健所や保健センターの役割、地域子育て支援事業、地域での健全育成について理解する。
21	多様な保育ニーズへの対応	地域における保育制度、保育の必要性に応じたサービス提供、認可外保育施設と多様な保育サービスについて理解する。
22	児童虐待、ドメスティックバイオレンスの防止	児童虐待の実態と対応、保育所保育指針による保育士の役割を理解する。
23	社会的養護	わが国における社会的養護、社会的養護のプロセス、新しい社会的養育ビジョンについて理解する。
24	障害のある子どもへの対応 少年非行などへの対応	児童福祉法の定義、障害者権利条約と障害児、障害者差別解消法による合理的配慮について、障害児のための制度、発達障害について理解する。不登校・少年非行の対応について理解する。
25	貧困家庭・外国につながる子どもとその家族への支援	子どもの貧困対策法、子どもの貧困対策に関する大綱、生活困窮者自立支援制度、外国につながる家族への支援について理解する。
26	ひとり親家庭、子どもと食育	ひとり親家庭についての統計を確認し、支援のしくみを理解する。食事の実態や食育基本法、保育所保育指針との関係を理解する。
27	子ども家庭福祉の動向と展望	次世代育成支援対策推進法による子ども家庭福祉の推進、子ども若者への支援、子育て家庭への支援の動向として幼児教育・保育の無償化などについて理解する
28	保育・教育・療育・保健・医療との連携とネットワーク、諸外国の動向	教育との連携、療育との連携、子育て世代包括支援センターの機能を理解する。諸外国の動向を知る。
29	後期まとめ	後期のまとめを行う
30	総まとめ	後期のまとめと振り返りを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援論		
必修選択	選択	（学則表記）	子ども家庭支援論		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論」（第2版）		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を生かした支援の基本を理解する。子育て家庭に対する支援体制を知る。加えて、支援サービスや地域資源を活用した保育士の活動について学び、子育て家庭のニーズに応じた支援の展開と課題について考察する。
到達目標	①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	宮里　美和子
実務経験	○
実務内容	保育士として保育園にて25年間勤務した実務経験を基に、子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を生かした支援の基本を教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	保育士が家庭支援を学ぶ意義について説明をする。今後の授業の進め方について説明する
2	子ども家庭支援の意義と必要性①	家庭とは
3	子ども家庭支援の意義と必要性②	現代のライフコースと家庭　離婚や再婚と親子関係
4	子ども家庭支援の目的と機能①	養育・保護を目的とした子ども家庭支援機能
5	子ども家庭支援の目的と機能②	休息・生活文化伝承・生命倫理感の醸成を視点とした子ども家庭支援機能
6	子どもの発達と家族①	子どもの発達
7	子どもの発達と家族②	子育てを通じた親の発達
8	子どもの発達と家族③	親の発達の実際

9	子どもの発達と家族④	親としての役割、子どもとしての役割
10	保育士による子ども家庭支援の 意義と基本①	福祉・保育の専門性を活かした支援
11	保育士による子ども家庭支援の 意義と基本②	生活の場としての特性を活かした支援　　地域の施設としての専門性を活かした支援
12	子どもの育ちの喜びの共有①	相談を通じた子どもの育ちの喜びの共有　　子どもの理解の促進
13	子どもの育ちの喜びの共有②	その子なりの成長を喜ぶ　共感信頼関係につなげる　保護者の自己尊重感を高める
14	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	ストレングス視点・エンパワーメント実践を理解する
15	保育士に求められる基本的態度①	受容的関わり　秘密保持　個別化（バイスティックの原則をもとに教科書に沿って授業を行う）
16	保育士に求められる基本的態度②	非審判的態度　自己決定の尊重　（バイスティックの原則をもとに教科書に沿って授業を行う）
17	家庭の状況に応じた支援①	家庭状況のアセスメント　対応の検討
18	家庭の状況に応じた支援②	支援方法の決定　家庭機能を念頭に置いた支援
19	地域資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	地域資源の活用　自治体・関係機関との連携・協力のポイント
20	子育ての福祉を図るための社会資源	行政による家庭支援　地域の公共施設による家庭支援　多様な家族像と行政の動向
21	子育て支援施策	エンゼルプランから子ども・子育てビジョン　子ども子育て支援新制度　待機児童の解消
22	次世代育成支援施策の推進	次世代育成支援対策推進法と子ども家庭支援　　次世代育成支援の活動・促進
23	ワークライフバランス、 男女共同参画	男女共同参画と家庭支援　子育て家庭のワークライフバランス
24	子ども家庭支援の内容と対象	放課後の子どもの居場所
25	保育所等を利用する子どもの 家庭への支援①	交流・相談支援
26	保育所等を利用する子どもの 家庭への支援②	情報提供の支援　家族同士の話し合いの促進支援　グループ活動に向けた支援
27	地域の子育て家庭への支援	子育てしやすい地域づくり　社会変化へのはたらきかけ
28	要保護児童等及びその家庭に 対する支援	要保護児童およびその家庭に対する支援と連携
29	子ども家庭支援に関する現状と課題	子育ての社会化・価値　近隣関係を通じた支援
30	総まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	社会的養護Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	社会的養護Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』(改訂版)		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	社会的養護の意義について、子どもの人権擁護や保育士等の倫理と責務を踏まえて理解する。歴史的変遷を辿り、今日の社会的養護の制度や実施体系、施設養護や家庭養護の実際を学ぶ。さらに、社会的養護の現状と課題について、施設運営管理や被措置児童等虐待防止、地域福祉との関係を踏まえて考察する。
到達目標	①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ⑤社会的養護の現状と課題について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	五十嵐　弘明 / 実務経験 / ○
実務内容	児童養護施設にて児童指導員･家庭支援専門相談員として20年間勤務後、放課後等デイサービスにて児童発達支援管理責任者･統括管理者として9年間勤務した実務経験を基に、そこで生活する子どもたちやその家族の実情や社会的養護の原理･原則、社会的養護システムついて、子どもの権利擁護の観点から教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ，到達目標について
2	現代社会における社会的養護の意義と変遷	社会的養護の理念と概念　社会的養護の歴史的変遷
3	子どもの権利擁護と社会的養護	社会的養護と子どもの権利
4		施設保育士の倫理と責務　施設養護の現代的課題
5	家庭の機能と社会的養護	社会や家庭の役割　家庭の役割
6		児童養護の体系

7	社会的養護の基本原則Ⅰ　養育	施設養護における養育
8		生活の規模
9	社会的養護の基本原則Ⅱ　保護	家庭からの保護
10		外界からの保護
11	社会的養護の基本原則Ⅲ　子どもであることの回復	虐待された子どもの理解と対応
12		心理療法担当職員との連携
13	社会的養護の基本原則Ⅳ　生活文化と生活力の習得	施設で生活文化を伝える意味
14		生活力の習得　生活の中における専門性の発揮
15	社会的養護の基本原則Ⅴ　生命倫理観の醸成	入所児童の生活環境と生命倫理観
16		専門職としての生命倫理
17	社会的養護の制度と実施体系	社会的養護の制度と法体系
18		社会的養護の専門職・実施者　社会的養護の仕組みと実施体系
19	施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ	乳児院と児童養護施設①
20		乳児院と児童養護施設②
21	施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ	障害児の入所施設　障害児入所施設における養護
22		児童自立支援施設　児童心理治療施設
23	家庭養護の特徴・対象・形態	家庭養護とは　里親やファミリーホーム
24		家庭養護の特徴と社会的養護　里親の認定・登録・研修と里親の現状　里親ならではの悩み
25	社会的養護の現状と課題	社会的養護に関する社会的状況　施設の運営管理　倫理の確立と保障
26		被措置児童等の虐待防止　社会的養護と地域福祉　これからの児童福祉施設援助者
27	総まとめ①	振り返りと総まとめ①
28		振り返りと総まとめ②
29	総まとめ②	振り返りと総まとめ③
30		振り返りと総まとめ④

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援の心理学		
必修選択	選択	（学則表記）	子ども家庭支援の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	生涯発達と初期経験の重要性について理解するとともに、家族・家庭の理解や、子育て家庭に関する現状を理解する。
到達目標	・生涯発達に関する心理学の基礎知識及び、初期経験の重要性、発達課題等についての知識を習得する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解し、それに伴った支援方法を習得する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	尾形　優一
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	生涯発達から支援を考える　①	乳幼児期の発達　①
3	生涯発達から支援を考える　②	乳幼児期の発達　②
4	生涯発達から支援を考える　③	児童期の発達　①
5	生涯発達から支援を考える　④	児童期の発達　②
6	生涯発達から支援を考える　⑤	青年期の発達　①
7	生涯発達から支援を考える　⑥	青年期の発達　②
8	生涯発達から支援を考える　⑦	成人期の発達

9	生涯発達から支援を考える　⑧	高齢期の発達
10	家族理解から支援を考える　①	家族・家庭の意義と機能　①
11	家族理解から支援を考える　②	家族・家庭の意義と機能　②
12	家族理解から支援を考える　③	親子関係・家族関係の理解
13	家族理解から支援を考える　⑥	ライフコースと仕事・子育て状況　①
14	家族理解から支援を考える　⑦	ライフコースと仕事・子育て状況　②
15	総まとめ　①	振り返り・解説
16	家族理解から支援を考える　⑧	ライフコースと仕事・子育て状況　③
17	多様な家族への支援を考える　①	多様な家族の現状　①
18	多様な家族への支援を考える　②	多様な家族の現状　②
19	多様な家族への支援を考える　③	多様な家族の現状　③
20	多様な家族への支援を考える　④	保護者の疾患や障害への配慮　①
21	多様な家族への支援を考える　⑤	保護者の疾患や障害への配慮　②
22	多様な家族への支援を考える　⑥	虐待への配慮　①
23	多様な家族への支援を考える　⑦	虐待への配慮　②
24	子どものこころへの支援を考える　①	子どものストレス
25	子どものこころへの支援を考える　②	睡眠、食事、排泄に関わる症状　①
26	子どものこころへの支援を考える　③	睡眠、食事、排泄に関わる症状　②
27	子どものこころへの支援を考える　④	子どもに見られる症状　①
28	子どものこころへの支援を考える　⑤	子どもに見られる症状　②
29	子どものこころへの支援を考える　⑥	発達障害
30	総まとめ　②	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報1					
授業形態	演習	科目名	子どもの理解と援助		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの理解と援助		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	実践につながる新しい子どもの理解と援助		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報2			
授業のねらい	子どもの各年齢ごとの育ちや抱える課題等を学び、具体的な援助や態度を知る。		
到達目標	1. 保育実践において子ども一人一人の実態に応じた心身の発達や、学びを把握することの意義を習得する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を習得する。 3. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	金子　いね	実務経験	○
実務内容	私立幼稚園にて教頭職を含め30年間以上勤務した実務経験を基に、保育実践における子どもの心身の発達や学び基本的な考え方に関して教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について　　なぜ子どもの理解が必要なのか
2	子ども理解と援助の基本　1	保育者が抱える問題の理解
3	子ども理解と援助の基本　2	保育者に求められるもの　　子ども理解と援助に必要なこと
4	胎児・0歳から1歳児の理解と援助　1	胎児～0歳児の育ち
5	胎児・0歳から1歳児の理解と援助　2	1歳児のの育ち
6	胎児・0歳から1歳児の理解と援助　3	0～1歳児が主体となる保育の捉え方
7	2歳から3歳児の理解と援助　1	2歳児の育ち
8	2歳から3歳児の理解と援助　2	3歳児の育ち
9	2歳から3歳児の理解と援助　3	2・3歳児の保育の環境と展開

10	4歳から6歳児の理解と援助　1	現代の子どもの育ちを取り巻く課題　　4歳児の育ち　1
11	4歳から6歳児の理解と援助　2	4歳児の育ち　2
12	4歳から6歳児の理解と援助　3	5・6歳児の育ち
13	保育の観察と記録　1	保育における観察と記録　　記録を生かした保育実践
14	保育の観察と記録　2	幼保小連携の在り方
15	総まとめ　1	振り返り・解説
16	発達障害児とその家族支援　1	発達障害児とは
17	発達障害児とその家族支援　2	発達障害児の理解
18	発達障害児とその家族支援　3	発達障害児と家族の支援
19	外国にルーツをもつ子どもとその家族支援　1	外国にルーツを持つ子どもとは
20	外国にルーツをもつ子どもとその家族支援　2	外国にルーツを持つ子どもとの保育環境と支援
21	外国にルーツをもつ子どもとその家族支援　3	外国にルーツを持つ子どもの家庭支援
22	保育における協働と連携の意義　1	協働・連携とは　　多職種や地域との協働・連携　1
23	保育における協働と連携の意義　2	多職種や地域との協働・連携　2
24	保育における協働と連携の意義　3	今、ここに生きる子どもの育ちを見つめて
25	子どもの理解に基づく発達援助　1	幼児期の発達とその対応例　1
26	子どもの理解に基づく発達援助　2	幼児期の発達とその対応例　2
27	児童期以降の発達　1	児童期
28	児童期以降の発達　2	青年期
29	児童期以降の発達　3	成人期　　老年期
30	総まとめ　2	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育の計画と評価		
必修選択	選択	(学則表記)	保育の計画と評価		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	保育の計画と評価ー豊富な例で１からかわる 幼稚園教育要領 保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本		出版社	萌文書林 チャイルド社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育における計画及び評価の重要性について理解する。保育の全体的な計画の編成と指導計画の作成について事例を通して、意義と方法を学ぶ。子ども理解に基づく保育の過程について（計画⇒実践⇒省察・評価⇒改善）その構造を捉え、保育内容の充実と質の向上について考える。
到達目標	１．保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ２．全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ３．子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	浦　裕美
実務経験	○
実務内容	保育園で保育士として15年勤務、保育園で園長として6年勤務した経験を基に、保育における計画と評価、保育内容の充実と質の向上について教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、ねらい、評価方法説明
2	保育における計画と評価の意義	保育における計画と評価の意義について
3	カリキュラムの基礎理論	カリキュラムの基礎理論について
4	教育課程・保育課程の歴史と変遷	教育課程・保育課程の変遷とその社会的背景について
5	社会の変化と保育に求められるもの	平成29年の幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂とその背景について
6	幼稚園における計画	幼稚園の目的、目標、5領域との関連について
7	保育所・認定こども園における教育・保育の計画	保育所・認定こども園の目的、目標、5領域との関連について

8	教育課程の編成の実際	教育課程を編成する際に考慮すべき事項について
9	子ども理解に基づく計画と評価	年齢ごとの一般的な発達過程、子どもの理解の観点の理解
10	指導計画におけるねらいと内容	「ねらい」と「内容」の意味
11	第１回復習	これまでの復習
12	指導計画案の作成と展開①	長期の指導計画と短期の指導計画の特徴の違いについて
13	指導計画案の作成と展開②	3歳未満児の指導計画の作成について
14	指導計画案の作成と展開③	3歳以上児の指導計画の作成について
15	指導計画案の作成と展開④	食育計画、子育て支援計画、保健・安全に関する計画、行事の計画を学ぶ
16	保育の省察および記録	子ども理解と記録の重要性について
17	保育の評価と改善　PDCAサイクルの考え方	保育の実践の評価と、PDCAサイクルによる保育の質の向上について
18	第２回復習	これまでの復習
19	総復習	総復習
20	保育課程論　教材・指導案の研究①	「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について
21	保育課程論　教材・指導案の研究②	授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究
22	保育課程論　教材・指導案の研究③	授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究
23	保育課程論　教材・指導案の研究④	授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究
24	保育課程論　教材・指導案の研究⑤	授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究
25	保育課程論　教材・指導案の研究⑥	授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究
26	保育課程論　教材・指導案の研究⑦	授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究
27	保育課程論　教材・指導案の研究⑧	授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究
28	保育課程論　教材・指導案の研究⑨	授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究
29	保育課程論　教材・指導案の研究⑩	授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究
30	総まとめ	授業のまとめ

シラバス

科目の基礎情報1					
授業形態	演習	科目名	乳児保育Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	乳児保育Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	『アクティブ・ラーニング対応 乳児保育 一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践Ⅱ』		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報2	
授業のねらい	乳児保育Ⅰで学んだ基本的考え方を軸に、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり方、配慮の実際を具体的に学ぶ。養護と教育の一体性を踏まえた3歳未満児の生活や遊び、保育方法、環境について、計画の作成や演習を通して具体的に学ぶ。
到達目標	1、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4、上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	乳児保育Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	浦　裕美
実務経験	○
実務内容	保育園で保育士として15年勤務、保育園で園長として6年勤務した経験を基に、3歳未満児の発育･発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり方、配慮の実際を具体的に教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	初回オリエンテーション	流れ、到達目標の確認
2	乳幼児の基本	1.乳児保育とは 2.人的および空間的観点から捉える「養護」 3.時間的観点から捉える「養護」
3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	1.生命の保持　2.情緒の安定
4	個々の子どもに応じた援助や 受動的・応答的関わり	2.0歳児の保育内容　3. 年齢と発達過程
5	子どもの体験と学びの芽生え	1.育みたい資質・能力　2.乳児期の終わりまでに育ってほしい姿
6	多様な保育	1.障害のある子の支援と保護者支援　　2.外国籍家庭などへの支援　　3.家庭の事情
7	これまでの振り返り	振り返りと復習、まとめ

8	乳児保育における生活・ 遊びの実際と援助	1.1日の流れで考えることの意味と必要性 2.1日の流れを意識した活動の計画と環境の構成 3.発達と個性の視点から1日の流れを考える
9	0歳児の発育・発達を踏まえた 生活・遊びの実際	1.0歳児保育で大切にしたいこと 2.0歳児の発達 3.0歳児の生活（気持ちの安定、睡眠・生活リズム、授乳・食事、おむつ交換・着替え） 4.0歳児の遊び
10		
11		
12	1～3歳児未満児の発育・発達を踏まえた 生活・遊びの援助の実際	1.健康　2.人間関係　3.環境　4.言葉　5.表現
13		
14		
15		
16	これまでの振り返り	振り返りと復習、まとめ
17	子ども同士の関わりと その援助の実際	1.保育者との遊び　　2.子ども同士の遊び　　3.生活での子ども同士の関わり
18	乳児保育における配慮の実際	1心身の健康への配慮　2.安全への配慮　3.情緒の安定を図るための配慮
19	実践編	ベーシックワーク、エピソードワーク、ロールプレイワーク、解説
20		
21		
22		
23	これまでの振り返り	振り返りと復習、まとめ
24	集団での生活における配慮	1.運営上の基準と担当制による配慮　2.担当制による配慮　3.集団での生活リズム
25	環境の変化や移行に対する配慮	1.家庭環境と園環境
26	実践　午後のお迎え・お帰り	ベーシックワーク、エピソードワーク、ロールプレイワーク、解説
27	乳児保育における計画と 実際	長期計画と短期計画
28	乳児保育における計画と 実際	個別的指導計画と集団の指導計画
29	これまでの振り返り	振り返りと復習、まとめ
30	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報1					
授業形態	演習	科目名	子どもの健康と安全		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの健康と安全		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	子どもの保健と安全		出版社	教育情報出版	

科目の基礎情報2	
授業のねらい	子どもの身体発育・発達の理解や健康状態の把握、疾病や事故の予防や対応など、保育における保健的対応に必要な基礎的事項を学ぶ。
到達目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	小田原短期大学関連科目
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	船生　智会
実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭･保育士として、私立幼稚園･保育園にて、12年間勤務した実務経験を基に、保育における保健的対応に必要な基礎的事項を教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	9章　子どもの病気と予防・手当	5節　子どもと血液の病気
2	9章　子どもの病気と予防・手当	6節　子どもと消化器の病気
3	9章　子どもの病気と予防・手当	7節　子どもと悪性腫瘍
4	9章　子どもの病気と予防・手当	8節　子どもと精神神経系の病気
5	9章　子どもの病気と予防・手当	9節　子どもと泌尿器・生殖器の病気
6	9章　子どもの病気と予防・手当	10節　子どもと皮膚の病気
7	9章　子どもの病気と予防・手当	11節　子どもと整形外科的病気
8	9章　子どもの病気と予防・手当	12節　子どもと口腔の病気

9	9章　子どもの病気と予防・手当	13節　子どもと眼の病気
10	9章　子どもの病気と予防・手当	14節　子どもと耳・鼻の病気
11	9章　子どもの病気と予防・手当	15節　子どもと内分泌の病気
12	9章　子どもの病気と予防・手当	16節　子どもと予防接種
13	第10章　保健的観点を踏まえた保育環境と援助	子どもの健康と安全オリエンテーション 1節　子どもの健康と保育の環境
14	第10章　保健的観点を踏まえた保育環境と援助	2節　子どもの保健に関する個別的対応 3節　子どもの集団全体の健康と安全管理
15	第11章　保育における健康と安全の管理	1節　子どもの衛生管理
16	第11章　保育における健康と安全の管理	2節　子どもの事故防止と安全対策
17	第11章　保育における健康と安全の管理	3節　子どもの危機管理と災害への備え
18	第12章　子どもの体調不良・けがと応急手当	1節　子どもの体調不良・けがと応急手当
19	第12章　子どもの体調不良・けがと応急手当	2節　応急処置と救急蘇生法
20	第13章　子どもの保健と感染症対策ガイドライン	1節　「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく予防
21	第13章　子どもの保健と感染症対策ガイドライン	2節　「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく対処
22	第14章　個別な配慮を要する子どもへの対応	1節　保育における保健的対応 2節　3歳児未満への対応
23	第14章　個別な配慮を要する子どもへの対応	3節　アレルギー疾患への対応
24	第14章　個別な配慮を要する子どもへの対応	4節　その他の慢性疾患への対応
25	第14章　個別な配慮を要する子どもへの対応	5節　障害のある子ども、医療的ケア児への対応
26	第15章　子どもと保健指導	1節　子どもの保健と行政 2節　子どもの集団と保健行事
27	第15章　子どもと保健指導	3節　子どもの保健指導
28	第16章　子どもの健康と安全管理の実施体制	1節　職員間の連携・協働と組織的取組
29	第16章　子どもの健康と安全管理の実施体制	2節　保健活動の計画と評価
30	第16章　子どもの健康と安全管理の実施体制	3節　母子保健・地域保健における自治体との連携 4節　家庭・専門機関・地域の関係機関等との連携

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	社会的養護Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	社会的養護Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ』(改訂版)		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	施設養護及び家庭養護の実際について具体的に理解する。社会的養護の必要な子どもの特性や現状を踏まえ、日常生活支援、治療的支援、自立支援の視点で事例から実践的に学ぶ。また、家庭支援、アセスメントの方法や個別の支援計画、記録、自己評価など、ソーシャルワークの専門的技術と知識を学ぶ。		
到達目標	①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ②施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	小田原短期大学関連科目		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	五十嵐　弘明	実務経験	○
実務内容	児童養護施設にて児童指導員･家庭支援専門相談員として20年間勤務後、放課後等デイサービスにて児童発達支援管理責任者･統括管理者として9年間勤務した実務経験を基に、各施設の実情を踏まえた具体的な実践方法や保育士の専門性に関わる知識・技術とその応用等について事例をもとに考察を交えながら教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・社会的養護における子ども理解と支援の基本①	子どもの最善の利益
2	社会的養護における子ども理解と支援の基本②	生存と発達の保障
3	社会的養護における子ども理解と支援の基本③	児童自立支援計画の作成と記録及び自己評価
4	社会的養護における子ども理解と支援の基本④	子どもの権利を守る仕組み
5	社会的養護における保育士等の専門性①	支援者としての資質と倫理
6	社会的養護における保育士等の専門性②	バーンアウトと共依存の予防

7	児童養護の体系と児童福祉施設の概要	児童養護の体系　児童福祉施設の概要
8	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際①	児童養護施設の暮らし
9	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際②	乳児院と母子生活支援施設の暮らし
10	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際③	医療型障害児入所施設の暮らし
11	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際④	治療的支援と児童自立支援施設・児童心理治療施設の暮らし
12	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際⑤	福祉型障害児入所施設の暮らし
13 14	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際⑥	里親制度の特徴とその実際
15 16	前半の内容の試験	まとめ
17 18	心の傷を癒し、心を育むための援助①	保育士の業務
19	心の傷を癒し、心を育むための援助②	虐待された子どもへの支援
20	心の傷を癒し、心を育むための援助③	虐待への対応
21	親子関係の調整①	子どもと家族への支援
22	親子関係の調整②	児童相談所との連携　家庭支援
23	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践①	相談援助の技術の活用
24	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践②	入所から退所後に至る支援と基本的日常生活支援
25	地域連携と家庭支援①	施設の小規模化・地域分散化
26	地域連携と家庭支援②	地域とのかかわりと家庭支援
27	地域住民と施設	地域と施設の関係
28	後半のまとめ	後半の内容のまとめと振り返り・レポート提出
29 30	総まとめ	学習内容の総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子育て支援		
必修選択	選択	（学則表記）	子育て支援		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	『生活事例からはじめる子育て支援』		出版社	青踏社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	子育て支援の原則をよく理解し、保育における相談や子育てに関する保護者の悩みへの対応について事例を考察しながら学び、保護者の子育て支援ができる知識と技術を身につける。
到達目標	①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 ②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	宮里　美和子　　実務経験　○
実務内容	保育士として保育園にて25年間勤務した実務経験を基に、保護者の子育て支援ができる知識と技術を教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	・授業の流れ、到達目標について
2	子どもの保育とともに行なう保護者の支援	・保護者をコーディネーターに ・保育を通じて保護者への支援を行う
3	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成①	・保護者との相互理解 ・信頼関係の形成
4	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成②	
5	保護者や家族の抱える支援のニーズへの気付きと多面的な理解	・保護者会からのニーズ把握　・保護者の様子や会話からのニーズ把握 ・子どもの様子からのニーズ把握
6	子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場の提供	・他の家族、地域住民との関係調整　・地域環境への働きかけ ・自治会等との連携・協力
7	子どもおよび保護者の状況・状態の把握	・事前の相互理解 ・状況・状態の把握
8	支援の計画と環境の構成	・支援計画づくり ・支援計画の考え方

9	支援の実践と記録	・支援の実践 ・記録の意味、種類、方法と留意点、開示と管理
10	評価	・多角的な評価　・終結時の評価　・プロセス評価 ・成果評価　・評価の活用
11	カンファレンス	・カンファレンスの目的と内容 ・カンファレンスの方法
12	職員間の連携・協働	・保育士同士の連携　・他職種の職員との連携 ・守秘義務と職員間の連携
13	社会資源の活用と自治体・関係機関との連携・協働	・社会資源の活用、調整、開発 ・自治体・関連機関との協働
14	振り返り	振り返りを実施する
15	前期まとめ	振り返りと前期のまとめを行う
16	保育所等における支援①	・家庭の実態を知り、子どもの最善の利益を守る ・子どもの実態を知り、子どもの立場を代弁する ・親子を知り、その関係をつなぐ　・連絡や通信による子育て支援 ・気軽に相談できる場
17	保育所等における支援②	
18	地域の子育て家庭に対する支援	・孤立の解消　・ストレスへの対応 ・子育て不安への対応　・保育知識の提供
19	地域を舞台とした子育て支援	・地域住民の関係づくりを通じた子育て支援　・地域社会とのかかわりの促進 ・保護者の自立への支援　・社会変化への働きかけ
20	障害のある子どもおよびその家族に対する支援	・障害児の保護者への相談支援　・障害の受容への支援 ・発達障害がある子どもへの保護者対応
21	特別な配慮を要する子どもおよびその家族に対する支援	・地域における特別な配慮へのニーズ把握　・施設入所の児童　・障害児における子育て支援 ・福祉サービスを活用した支援　・外国につながる子ども
22	子ども虐待の予防と対応	・虐待の早期発見と対応　・児童虐待への対応 ・児童虐待の早期発見と対応　・虐待の類型と保護者支援
23	要保護児童等の家庭に対する支援	・社会資源を活用して保護者とともにとり組む ・連携できるネットワークをつくる　・自己決定を尊重する
24	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解	・個々のニーズに応じた家族支援　・「気になる」親子に潜む課題 ・多様化する子育て支援の課題　・家族保全　・苦情への対応　・秘密の保持
25	保育士の行なう子育て支援の技術①	・グループを活用した相談援助の過程、方法、技術 ・地域環境に働きかける子育て支援の技術 ・社会活動法(ソーシャルアクション) ・近隣集団会議 ・ソーシャル・スキル・トレーニング
26	保育士の行なう子育て支援の技術②	
27	保育士の行なう子育て支援の技術③	
28	保育士の行なう子育て支援の技術④	
29	まとめ	後期まとめ確認を行う
30	後期まとめ	振り返りと後期のまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	教育相談		
必修選択	選択	(学則表記)	教育相談		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	スギ先生と学ぶ　教育相談のきほん		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	幼児、児童の抱える様々な問題に対して解決のための支援は、教師の大切な役割の一つである。本講義では教育相談の理論や方法、心得ておくべきカウンセリングの基礎知識とその方法を身につける。
到達目標	1.子どもの発達や心の問題とその背景を理解し、カウンセリングマインドを活かして、子どもや保護者とかかわる姿勢を習得する。 2.保育に活かす教育相談の理論や具体的な進め方について習得する。 3.他者の気持ちを想像する力を高めるなど、保育者としての傾聴・受容の知識及び技術を習得する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	佐藤　亮太郎　　実務経験　○
実務内容	大学附属相談室や小学校･中学校にて、相談員や支援員として、5年間携勤務した実務経験を基に、教育相談の理論や方法、カウンセリングの基礎知識を教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について　　教育相談を学ぶ意味
2	教育相談とは　①	教育相談の意義
3	教育相談とは　②	園における様々な教育相談の形
4	子ども理解	子ども理解の方法
5	保護者への支援	保護者理解とは　　保護者理解のポイント
6	カウンセリングマインド　①	ロジャーズの来談者中心療法
7	カウンセリングマインド　②	保育者とカウンセリングマインド
8	カウンセリング技法	傾聴とは何か　　言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション

9	教育相談体制	園内の教育相談体制　　特別支援教育コーディネーターとは
10	外部機関との連携	連携する専門機関　　連携の留意点
11	保育者のメンタルヘルス　①	保育者のストレスとは
12	保育者のメンタルヘルス　②	医療・福祉専門職のメンタルヘルス
13	保育におけるカウンセリング　①	子育てに耳を傾けることの意味
14	保育におけるカウンセリング　②	カウンセリング（面接）方法
15	総まとめ　①	振り返り　解説
16	情報の伝達　①	伝達のための適切な言葉とは
17	情報の伝達　②	通信を利用した情報提供の仕方　①
18	情報の伝達　③	通信を利用した情報提供の仕方　②
19	子ども理解と保護者支援　①	教育現場における行動療法　①
20	子ども理解と保護者支援　②	教育現場における行動療法　②
21	就学相談　①	就学相談とは
22	就学相談　②	就学相談と面接
23	アセスメント　①	他者理解とアセスメント
24	アセスメント　②	多様なアセスメント方法
25	気になる子ども・保護者への対応　①	「問題行動」とは
26	気になる子ども・保護者への対応　②	いじめのメカニズム
27	気になる子ども・保護者への対応　③	登園しぶりをする子どもについて
28	社会性の発達のつまずきとその理解　①	つまずきに関連する障害の病理や特徴
29	社会性の発達のつまずきとその理解　②	教育現場における合理的配慮
30	総まとめ　②	振り返り　解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	教育の方法と技術		
必修選択	選択	（学則表記）	教育の方法と技術		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	実践につながる　新しい幼児教育の方法と技術		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・子どもの学びを支える教育方法や教育技術、教育目標や教授方法などについて理解する。 ・学校現場におけるツールを効果的に活用した教育計画、実施、教材の開発、授業評価に関わる知識と技術を習得する。 ・教師を目指す学生自身のICT活用能力を高める。 ・教育的な実践力を身に付ける。
到達目標	①西洋と日本における保育と幼児教育の歴史的な流れを理解し説明ができる。 ②保育と幼児教育に関する基本事項を理解し説明できる。 ③各種情報メディアの活用法について学び実践ができる。 ④これからの社会に対応できるような保育と幼児教育のあり方について考え発表することができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	野口　聡子　　実務経験　○
実務内容	幼稚園教諭として私立幼稚園にて9年間勤務した実務経験を基に、実践的な教育方法や技術について教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	教育方法・技術に関する 諸概念の理解	子どもの学びと関係を踏まえて教育の方法や技術がなぜ必要なのかについて学ぶ
3	教育方法の理論と歴史	「環境指導法」を通して幼児教育の歴史と意義について学ぶ
4	教授組織と学習組織の諸形態	「造形」を例にして幼児教育を支える教師の役割や発達に即した集団での学びの意義について学ぶ
5	授業における教師の役割と指導技術①	「身体表現」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ
6	授業における教師の役割と指導技術②	「音楽」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ
7	これまでのまとめ	まとめ

8	授業における教師の役割と指導技術③	「言葉」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ
9	授業における教師の役割と指導技術④	「算数」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ
10	授業における教師の役割と指導技術⑤	「理科」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ
11	授業の設計・実施・評価	「総合学習」から授業の目標づくりや学習指導案の作成について理解を深める
12	学校におけるICT環境	高度情報化社会、コンピュータの特性と学校での活用について学ぶ
13	これまでのまとめ	まとめ
14	授業実践能力の改善と向上	「外国にルーツを持つ子ども」を例としてICTの活用法について学ぶ
15	障害のある子どもへの理解	発達に何らかの障害がある子どもに対する対応の仕方を学ぶ
16	虐待された子どもに対する対応	児童虐待について理解を深め、子どもに対する支援教育の方法を学ぶ
17	教育における評価	指導計画の立て方とその評価方法について学ぶ
18	「教育の方法と技術」の課題とまとめ	全体を振り返りながら「教育の方法のと技術」の今後の課題について考える
19	これまでのまとめ	総復習
20	教育方法・技術に関する諸概念の理解、教育方法の理論と歴史	子どもの学びと関係を踏まえて教育の方法や技術がなぜ必要なのかについて学ぶ 「環境指導法」を通して幼児教育の歴史と意義について学ぶ
21	教授組織と学習組織の諸形態	「造形」を例にして幼児教育を支える教師の役割や発達に即した集団での学びの意義について学ぶ
22	授業における教師の役割と指導技術	「身体表現」「音楽」「言葉」「算数」「理科」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ
23	授業の設計・実施・評価	「総合学習」から授業の目標づくりや学習指導案の作成について理解を深める
24	これまでのまとめ	まとめ
25	学校におけるICT環境	高度情報化社会、コンピュータの特性と学校での活用について学ぶ
26	授業実践能力の改善と向上	「外国にルーツを持つ子ども」を例としてICT活用法について学ぶ
27	障害のある子どもへの理解	発達に何らかの障害がある子どもに対する対応の仕方を学ぶ
28	虐待された子どもに対する対応	児童虐待について理解を深め、子どもに対する支援教育の方法を学ぶ
29	教育における評価	指導計画の立て方とその評価方法について学ぶ
30	年間総復習	総復習

シラバス

科目の基礎情報1					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ 保育のためのやさしい子どもの歌ー弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	萌文書林 ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	・音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基礎的知識と技術を身に付ける。 ・子どもの経験・実態に応じた、音楽表現と関連付ける遊びの展開を習得する。		
到達目標	保育者として必要な音楽技術や楽典の知識を習得し、それを基に演奏(表現)ができる。 音楽教育のメソッドを理解し、子どもの音楽遊びの展開を習得する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ・音楽表現Ⅵ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	大石　立子　他1名	実務経験	○
実務内容	音楽･ピアノ講師として高校･専門学校･大学にて15年間勤務した実務経験を基に、音楽表現活動の展開に必要な基礎的知識と技術を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 音楽の基礎知識の復習	授業ガイダンス　・音名　・音程の復習
2	音楽の基礎知識1	音階と調性
3	音楽の基礎知識②	音階と調性　ルート音による伴奏
4	和音とコードネーム1	三和音（長三和音・短三和音）の構成　・三和音のコードネームの表記法など
5	和音とコードネーム②	音階上にできる三和音、和音記号、コードネーム　・主要三和音と和音機能、カデンツなど
6	和音とコードネーム③	副三和音　・四和音、属七の和音など
7	和音とコードネーム④	和音の転回形など
8	まとめ	コード理論のまとめ
9	子どもと楽しむ打楽器1	楽器の特徴と奏法1

10	子どもと楽しむ打楽器②	楽器の特徴と奏法②
11	コード伴奏法1	コード伴奏法の実践　～コード付け～
12	コード伴奏法②	コード伴奏法の実践　～転回形～など
13	コード伴奏法③	コード伴奏法の実践　～伴奏付けにおいて楽曲にふさわしい伴奏形についての理解～など
14	まとめ	コード伴奏法のまとめ
15	移調・移旋・転調1	子どもたちが歌いやすい高さに変える方法について 移調　移旋　転調について学ぶ
16	移調・移旋・転調②	移調　移旋　転調について学ぶ　・コード伴奏法の実践
17	移調・移旋・転調③	移調　移旋　転調について学ぶ　・コード伴奏法の実践　　・移調奏のまとめ
18	保育現場におけるピアノの枠割と表現1	歌唱の伴奏としての役割　・想像を促し、子どもの表現を導く楽器表現として　・絵本や劇中の効果音として
19	保育現場におけるピアノの枠割と表現②	合奏の1パートや伴奏として　・言葉の環境づくりとして　・行事での奏楽やBGMとして　・歌（メロディー）の創作
20	保育現場におけるピアノの枠割と表現③	まとめ
21	楽器遊びを中心にした表現活動1	サウンドマップ　・サウンドスケープ　・いろいろな楽器やリズムに親しむ
22	楽器遊びを中心にした表現活動②	日常の楽器遊びからアンサンブルへ　・ボイスアンサンブル・リズムアンサンブル
23	表現遊びを中心にした表現活動	まとめ
24	4・5歳児を対象とした音楽遊びの計画	4・5歳児を対象とした音楽遊びの指導計画実例　　・視覚的教材を用いた活動
25	4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの計画1	4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの指導計画実例～フレーズを用いて～
26	4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの計画②	4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの指導計画実例～拍子を感じて～
27	指導実践	各回内容の実践
28	指導実践	各回内容の実践
29	音楽遊びの模擬指導実践	模擬保育の指導計画立案と発表
30	音楽遊びの模擬指導実践とまとめ	模擬保育の指導計画立案と発表　一年の総まとめと振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅳ		
必修選択	選択	（学則表記）	音楽表現Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	保育のためのやさしい子どもの歌―弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	子どものうたのレパートリーを広く学習し、保育現場に相応しい演奏技術を身に付ける。		
到達目標	子どものうたの伴奏（弾き歌い）の技術を身に付け、保育現場に相応しい演奏表現ができるようになる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅴ・音楽表現Ⅵ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	樋野 涼加　他1名	実務経験	○
実務内容	音楽教室でピアノ講師として8年間勤務した経験を基に、保育現場に適した子どものうたと演奏技術を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1年次の復習	授業の流れ、到達目標について 1年次既習曲の確認
2	季節のうた（1）	生活のうたの弾き歌い練習
3	季節のうた（2）	生活のうたの弾き歌い練習
4	季節のうた（3）	生活のうたの弾き歌い練習
5	季節のうた（4）	生活のうたの弾き歌い練習
6	成果発表①	「生活のうた」から演奏発表
7	季節のうた：夏（1）	夏の季節の弾き歌い練習
8	季節のうた：夏（2）	夏の季節の弾き歌い練習
9	季節のうた：夏（3）	夏の季節の弾き歌い練習

10	季節のうた：夏（4）	夏の季節の弾き歌い練習
11	季節のうた：秋（1）	秋の季節の弾き歌い練習
12	季節のうた：秋（2）	秋の季節の弾き歌い練習
13	季節のうた：秋（3）	秋の季節の弾き歌い練習
14	季節のうた：秋（4）	秋の季節の弾き歌い練習
15	成果発表②	「季節のうた：夏・秋」からの演奏発表
16	季節のうた：冬（1）	冬の季節の弾き歌い練習
17	季節のうた：冬（2）	冬の季節の弾き歌い練習
18	季節のうた：冬（3）	冬の季節の弾き歌い練習
19	季節のうた：冬（4）	冬の季節の弾き歌い練習
20	季節のうた：春（1）	春の季節の弾き歌い練習
21	季節のうた：春（2）	春の季節の弾き歌い練習
22	季節のうた：春（3）	春の季節の弾き歌い練習
23	季節のうた：春（4）	春の季節の弾き歌い練習
24	成果発表③	「季節のうた：冬・春」からの演奏発表
25	その他の子どものうた（1）	その他の子どものうたの弾き歌い練習
26	その他の子どものうた（2）	その他の子どものうたの弾き歌い練習
27	その他の子どものうた（3）	その他の子どものうたの弾き歌い練習
28	その他の子どものうた（4）	その他の子どものうたの弾き歌い練習
29	成果発表④	「その他の子どものうた」から演奏発表
30	総まとめ	演奏発表　一年間の振り返りと次年度に向けて

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	言語表現		
必修選択	選択	（学則表記）	言語表現		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	保育実践に生きる「言語表現」児童文化財活用のエッセンス		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①素話や絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、言葉遊びなど、子どもの言語発達に関わる児童文化財の特徴や正しい扱い方を学ぶ。 ②集団を前にしての実技と相互批評を通して、保育現場で子どもの言語活動を豊かに展開する実践力を身につける。
到達目標	①子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、 子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ②保育における教材等の活用及び作成と保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	音楽表現Ⅰ・保育製作Ⅰ・身体表現Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	伊藤　知香子
実務経験	○
実務内容	海外日本人幼稚園を含む幼稚園にて教諭として8年間勤務、保育園にて保育士として5年間勤務、 東京都子育て支援員として1年間勤務をした実務経験を基に、保育現場における子どもの言語活動について教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて、実践の役割分担や相互評価について
2	言語表現とは	言語表現の位置づけについて
3	児童文化財とは	児童文化財について歴史や活用、子どもの発達に応じた活用について①
4	児童文化財とは	児童文化財について歴史や活用、子どもの発達に応じた活用について②
5	絵本読み聞かせ	絵本の特性と表現技術について
6	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表①
7	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表②
8	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表③
9	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表④
10	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表⑤

11	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表⑥
12	おはなし	おはなしの特性と表現技術について①
13	おはなし	おはなしの特性と表現技術について②
14	おはなし	おはなしの実践・発表、相互評価①
15	おはなし	おはなしの実践・発表、相互評価②
16	紙芝居	紙芝居の特性と表現技術
17	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価①
18	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価②
19	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価③
20	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの特性と表現技術について
21	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成①
22	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成②
23	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成③
24	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成④
25	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの実践・発表、相互評価①
26	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの実践・発表、相互評価②
27	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの実践・発表、相互評価③
28	まとめ	全体を通した感想文・相互評価①
29	まとめ	全体を通した感想文・相互評価②
30	まとめ	全体を通した感想文・相互評価③

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	保育製作Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	保育製作Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	幼児造形の基礎		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①保育者として必要な製作表現に関わる知識、感性及び技術を身につける ②子どもの成長に合った活動を想定して指導計画を立てる重要性を理解する ③子どもを惹きつける児童文化財の作成方法と表現方法を身につける
到達目標	①子どもの発達に合わせた題材及び材料の選定を自身で考え実施することができるようになる ②幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえ、時期を追った子どもたちの活動計画を立案できるようになる ③子どもを惹きつける児童文化財を適正に作成し、実践できるようになる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	保育製作Ⅰ・保育製作Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	伊藤　知香子	実務経験	○
実務内容	海外日本人幼稚園を含む幼稚園にて教諭として8年間勤務、保育園にて保育士として5年間勤務、東京都子育て支援員として1年間勤務した実務経験を基に、保育者に必要な音楽知識･演奏技術、音楽表現を指導する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業「保育製作Ⅱ」の概要説明、年間計画、到達目標、評価、教材の提示 保育現場における造形表現の位置づけと制作活動の大切さを再認識
2	製作指導の方法①	様々な描画材（絵の具・クレパス・マーカーなど）を使った技法の実践 ドリッピング、フロッタージュ、バチック、スクラッチ、吹き流し・にじみ絵など
3	製作指導の方法②	素材や道具別の切り方、接着方法を知る
4	製作指導の方法③	子どもの主体性を生かす保育の理解 身近な廃材を使用した自由な製作①
5	製作指導の方法③	子どもの主体性を生かす保育の理解 身近な廃材を使用した自由な製作②
6	平面表現 児童文化財①-1	マジックシアターの計画案作成
7	平面表現 児童文化財①-2	保育活動で使えるマジックシアターを作る
8	平面表現 児童文化財①-3	保育活動で使えるマジックシアターを作る
9	平面表現 児童文化財①-4	保育活動で使えるマジックシアターを作る

10	平面表現 児童文化財①-5	保育活動で使えるマジックシアターを作り、グループで発表する
11	製作指導の実践①	製作指導の模擬保育を行う意義の理解と計画
12	製作指導の実践②	製作指導の模擬保育の準備
13	製作指導の実践③	製作指導の模擬保育の準備
14	製作指導の実践④	製作指導の模擬保育の実践
15	製作指導の実践⑤	製作指導の模擬保育の実践
16	乳幼児の発達と造形表現①	心身の発達段階による表現の違いを知る
17	乳幼児の発達と造形表現②	心身の発達段階による表現の違いを知る
18	平面表現 児童文化財②-1	保育活動で使える保育教材（スケッチブックシアター・パネルシアターなど）を作る
19	平面表現 児童文化財②-2	保育活動で使える保育教材（スケッチブックシアター・パネルシアターなど）を作る
20	平面表現 児童文化財②-3	保育活動で使える保育教材（スケッチブックシアター・パネルシアターなど）を作る
21	平面表現 児童文化財②-4	保育活動で使える保育教材（スケッチブックシアター・パネルシアターなど）をグループ内で発表する
22	造形･製作活動の広がり①	環境（社会）と連携した造形・製作活動の理解と実践
23	造形･製作活動の広がり②	環境（社会）と連携した造形・製作活動の理解と実践
24	造形･製作活動の広がり③	環境（社会）と連携した造形・製作活動の理解と実践
25	総合制作①	季節や行事、文化を反映した造形・製作
26	総合制作②	季節や行事、文化を反映した造形・製作
27	総合制作③	季節や行事、文化を反映した造形・製作
28	まとめ	製作のまとめ
29	まとめ	製作のまとめ
30	まとめ 振り返り	製作のまとめと一年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	身体表現Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	身体表現Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	指導実践を通して運動遊びの指導力を身につける。		
到達目標	幼児期に必要な運動遊びや身体表現法を考案し、指導できるようになる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	小田原短期大学関連科目		
関連科目	身体表現Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	酒井　みゆき	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭として私立幼稚園で4年間、フィットネス団体でインストラクターとして10年間勤務した実務経験を基に、幼児期の運動に関する指導方法について教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について理解する
2	運動遊び実践	運動遊びを実践する
3	音楽体操 考案	音楽体操の振付を考案する
4	音楽体操 準備	考案した音楽体操の実践準備をする
5	音楽体操 実践	考案した音楽体操の指導実践
6	鬼ごっこ	鬼ごっこを実践する
7	ボール遊び	ボール遊びを実践する
8	マットを使った運動遊び	マット運動の指導と補助
9	跳び箱を使った運動遊び	跳び箱運動の指導と補助

10	鉄棒を使った運動遊び	鉄棒運動の指導と補助
11	器械運動の補助方法	マット、跳び箱、鉄棒の補助方法
12	運動遊び 考案	運動遊びの指導実践内容を考案する
13	運動遊び 準備	考案した運動遊びの実践準備をする
14	運動遊び 実践	考案した運動遊びの指導実践
15	前期のまとめ	前期の振り返りとまとめ
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	個人での指導実践準備	個人指導の実践準備
18	個人での指導実践①	個人指導の実践
19	個人での指導実践②	個人指導の実践
20	個人での指導実践③	個人指導の実践
21	個人での指導実践④	個人指導の実践
22	個人での指導実践⑤	個人指導の実践
23	個人での指導実践⑥	個人指導の実践
24	個人での指導実践⑦	個人指導の実践
25	個人での指導実践⑧	個人指導の実践
26	個人での指導実践⑨	個人指導の実践
27	個人での指導実践⑩	個人指導の実践
28	個人での指導実践⑪	個人指導の実践
29	個人での指導実践⑫	個人指導の実践
30	総まとめ	授業の振り返りとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	こどものうたⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	こどものうたⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	こどものうた200 続こどものうた200		出版社	チャイルド本社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	「こどものうたⅠ」で学んだ歌唱技術を活かし更に音楽的表現力を高めるとともに、保育者として音楽の魅力を伝えるための知識と指導力を身につける。
到達目標	子どもの年齢ごとの声域や言語、歌唱の発達について特徴を述べることができ、適切な指導ができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	こどものうたⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	村上　陽子
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、評価
2	3歳児の歌唱指導	歌唱練習
3	3歳児の歌唱指導	歌唱練習
4	3歳児の歌唱指導	歌唱練習
5	3歳児の歌唱指導	歌唱練習
6	3歳児の歌唱指導	歌唱練習
7	成果発表①	歌唱発表
8	4歳児の歌唱指導	歌唱練習
9	4歳児の歌唱指導	歌唱練習

10	4歳児の歌唱指導	歌唱練習
11	4歳児の歌唱指導	歌唱練習
12	4歳児の歌唱指導	歌唱練習
13	成果発表②	低年齢児（3歳）の模擬指導立案
14	成果発表②	低年齢児（3歳）の模擬指導発表
15	成果発表②	低年齢児（3歳）の模擬指導発表
16	5歳児の歌唱指導	歌唱練習
17	5歳児の歌唱指導	歌唱練習
18	5歳児の歌唱指導	歌唱練習
19	5歳児の歌唱指導	歌唱練習
20	5歳児の歌唱指導	歌唱練習
21	成果発表③	歌唱発表
22	成果発表③	歌唱発表
23	あそびうた	あそびうたの実践
24	あそびうた	あそびうたの実践
25	あそびうた	あそびうたの実践
26	いろいろな歌の形態に親しむ	歌唱練習
27	いろいろな歌の形態に親しむ	歌唱練習
28	成果発表④	4・5歳児の模擬指導立案
29	聖愛発表④	4・5歳児の模擬指導発表
30	成果発表④	4・5歳児の模擬指導発表と一年の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習指導Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	実習の目的を明確に理解し、日誌、指導案の書き方を習得して実習に臨む準備をする。 各年齢の発達を理解し、発達にあった子どもへの関わり方を知る。
到達目標	１．日誌の記録方法や指導案作成について学び、発達にあった記録や立案ができるようになる。 ２．模擬保育等を通じて、部分実習や責任実習へのイメージが持てるようになる。 ３．自身の課題を明確化し、実習での学びを深めることができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	実習指導Ⅰ・実習指導Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	山崎　恭子　他1名
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて担任や園長として22年間勤務した実務経験を基に、実習の事前事後指導を行う。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス 教育実習について	授業ガイダンス、実習について
2	実習日誌①	実習日誌演習
3	実習日誌②	エピソード記録演習
4	教育実習Ⅰガイダンス 実習オリエンテーションの準備	実習オリエンテーションに向けての準備 プライバシー保護と守秘義務について
5	指導案の書き方	部分実習の書き方について学ぶ
6	３歳以上児の発達と特徴	３歳以上児の発達特徴について理解
7	様々な保育内容①	実践力をつけるための様々な保育を知る
8	お礼状の書き方 部分実習指導案作成①	お礼状の書き方を知る 自己課題に沿った指導案を作成する
9	部分実習指導案作成②	自己課題に沿った指導案を作成する

10	部分実習指導案作成③ 実習直前指導	自己課題の準備と確認 実習の心構えについて最終確認
11	実習（Ⅰ期）振り返り	実習の統括・自己評価
12	教育実習Ⅱガイダンス 責任実習について	実習の目的と概要・実習規定・実習の心構え 責任実習について指導案のたて方を学ぶ
13	責任実習に向けての模擬保育①	３歳以上児の模擬保育を行うための準備（立案・指導案作成）
14	責任実習に向けての模擬保育②	３歳以上児の模擬保育を行うための準備（立案・指導案作成）
15	責任実習に向けての模擬保育③	３歳以上児模擬保育発表
16	指導案作成	各自の課題に沿った指導案作成
17	指導案作成	各自の課題に沿った指導案作成
18	実習直前指導	自己課題の準備と確認 実習の心構えについて最終確認
19	実習（Ⅱ期）振り返り	実習統括・自己評価
20	実習日誌最終不備確認	実習日誌の最終確認 不備等の確認や訂正
21	考察練習のための模擬保育①	エピソード記録や事例紹介に基づく模擬保育準備（検証・立案）
22	考察練習のための模擬保育②	エピソード記録や事例紹介に基づく模擬保育準備（検証・立案）
23	考察練習のための模擬保育③	エピソード記録や事例紹介に基づく模擬保育準備（検証・立案）
24	考察練習のための模擬保育④	エピソード記録や事例紹介に基づく模擬保育準備（発表）
25	乳児及び３歳未満時の発達と特徴	乳児及び３歳未満児の発達と特徴の理解
26	３歳未満児向け教材研究	乳児および３歳未満児に向けての教材研究
27	３歳未満児向け教材研究	乳児および３歳未満児に向けての教材研究
28	３歳未満児向け教材研究	乳児および３歳未満児に向けての教材研究・発表
29	保育者としての職業倫理 保育者の専門性	子どもの権利条約を元に保育を考える 保育に求められる専門性と保育の質の向上に向けて
30	１年間のまとめ	１年間の振り返りをする

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	表現		
必修選択	選択	(学則表記)	表現		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	表現指導法ー感性を育て表現の世界を拓く		出版社	上野奈初美編著萌文書林	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育者として子どもの表現力をどのように育て、援助していけばよいかについて学ぶ。子どもと豊かに関わり、育ちを支えるために必要な保育者自身の感性とそれを支える表現技術の獲得を目指す。さらに、保育の場における「表現」に関する課題、他の領域との関連性についても理解を深める。		
到達目標	1．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 4．保育の多様な展開について具体的に理解する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	小田原短期大学関連科目		
関連科目	健康・人間関係・環境・言葉		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	金子　いね	実務経験	○
実務内容	私立幼稚園にて教頭職を含め30年間以上勤務した実務経験を基に、表現のプロセスを大事にした指導力について教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・到達目標・成績評価の基準について
2	子どもにとっての表現とは	第1講　子どもの「表現」に関する基礎的事項について理解する
3	領域「表現」とは	第2講　領域「表現」の基本について理解する
4	リズムを楽しむ子どもの身体表現	第3講　子どもの身体表現とリズムとの密接な関わり合いを学ぶ
5	スポーツの名場面を表現に	第4講　スポーツの特性を知り身体表現との相違点や類似点を学ぶ
6	音楽表現活動の指導①	第5講　音楽表現活動の基盤である聴くことについて理解し、声を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ。また、保育者自身の表現力を培う

7	音楽表現活動の指導②	第6講　楽器や音の出る素材を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ。また、保育者自身の表現力を培う
8	幼児の造形表現の特質	第7講　幼児の造形表現の特徴を学ぶ
9	造形の材料と技法	第8講　造形表現の材料や技法について学ぶ
10	言葉による表現①	第9講　子どもにとっての言語表現とは何かについて学ぶ
11	言葉による表現②	第10講　言葉を媒介とした表現遊びについて理解する
12	中間振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認
13	自然と生活	第11講　年度当初の保育活動の特色について理解する
14	夏のイメージから表現へ	第12講　夏のイメージから多様な表現が生まれることを学ぶ
15	総合的音楽表現活動の指導	第13講　行事を通して子どもの自主性や表現力、協働する力を育むための保育者の関わり方や計画の実践方法を学ぶ
16	総合活動計画の立案	第14講　部分実習指導案を作成できるようにする
17	領域「表現」とはの目指すもの	第15講　現代社会の中で子どもの豊かな表現を育むための課題について考える
18	振り返り	総復習
19	領域「表現」に関する実践①	計画→（製作）→実践
20	領域「表現」に関する実践②	計画→（製作）→実践
21	領域「表現」に関する実践③	計画→（製作）→実践
22	領域「表現」に関する実践④	計画→（製作）→実践
23	領域「表現」に関する実践⑤	計画→（製作）→実践
24	領域「表現」に関する実践⑥	計画→（製作）→実践
25	領域「表現」に関する実践⑦	計画→（製作）→実践
26	領域「表現」に関する実践⑧	計画→（製作）→実践
27	領域「表現」に関する実践⑨	計画→（製作）→実践
28	領域「表現」に関する実践⑩	計画→（製作）→実践
29	領域「表現」に関する実践⑪	計画→（製作）→実践
30	「表現」総まとめ	保育における「表現」

シラバス

科目の基礎情報1					
授業形態	演習	科目名	保育内容総論		
必修選択	選択	（学則表記）	保育内容総論		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	生活事例からはじめる保育内容総論 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 保育する力		出版社	青踏社 チャイルド本社 ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報2	
授業のねらい	保育の全体構造を理解し「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容の関連を学ぶ。子どもの発達や社会状況、保育内容の歴史等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に即して、多様な保育展開ができるよう具体的な保育の過程につなげて理解する。
到達目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	滝沢　和香奈
実務経験	○
実務内容	保育士として未就学児親子支援･プレーパークにて4年間活動して居る実務経験を基に、保育の全体構造や子どもの発育に応じた保育展開の技術を教授する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、ねらい、評価方法説明
2	「保育内容」のねらいと内容1	保育の目的・保育内容について
3	「保育内容」のねらいと内容2	保育の目的・保育内容について
4	保育内容の変遷1	保育内容の歴史的変遷と社会状況との関連について
5	保育内容の変遷2	保育内容の歴史的変遷と社会状況との関連について

6	「遊び」について	子どもにとって遊びとは何かについて
7	行事をめぐって1	行事の意味、園行事の指導計画について
8	行事をめぐって2	行事の意味、園行事の指導計画について
9	「領域」の考え方1	保育内容「5領域」について
10	「領域」の考え方2	保育内容「5領域」について
11	「領域」の考え方3	保育内容「5領域」について
12	第1回復習	これまでの復習
13	保育の多様な展開1	個別の支援の必要性、子ども理解、幼保小・地域の連携、保育の多様化について
14	保育の多様な展開2	個別の支援の必要性、子ども理解、幼保小・地域の連携、保育の多様化について
15	保育の多様な展開3	個別の支援の必要性、子ども理解、幼保小・地域の連携、保育の多様化について
16	保育の多様な展開4	個別の支援の必要性、子ども理解、幼保小・地域の連携、保育の多様化について
17	保育の記録1	保育における自己評価、子どもをより理解するための記録について
18	保育の記録2	保育における自己評価、子どもをより理解するための記録について
19	第2回復習	これまでの復習
20	保育の今日的課題1	保育の今日的な課題について
21	保育の今日的課題2	保育の今日的な課題について
22	保育の今日的課題3	保育の今日的な課題について
23	保育の今日的課題4	保育の今日的な課題について
24	保育内容総論　全般の教材等の研究1	授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究
25	保育内容総論　全般の教材等の研究2	授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究
26	保育内容総論　全般の教材等の研究3	授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究
27	保育内容総論　全般の教材等の研究4	授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究
28	保育内容総論　全般の教材等の研究5	授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究
29	保育内容総論　全般の教材等の研究6	授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究
30	総まとめ	授業のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	地域支援実践Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	地域支援実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	地域社会において福祉・教育・保育等の領域に関わるボランティア活動に参加することを通して、多様な能力の育成、社会性の涵養ならびに実践による知識技術の習得などを目指す。
到達目標	①専門分野を活かして地域社会に貢献する。 ②保育実習の事前・事後の学習に役立てる。 ③進路選択の一助とする。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	山口　沙織　他1名
実務経験	
実務内容	

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	キャリアプランニングⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアプランニングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	こども総合学科	1	15
使用教材	さんこう就活ガイド		出版社	株式会社NOCTH	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・働くこと・保育業界の意義などを知ることで、就労のイメージをつける ・就活のスケジュール、準備、ノウハウを知る
到達目標	・業界理解、自己分析を深めることで、働くことのイメージが膨らんでいる ・就職活動のルールややり方を理解し、就職活動の動き出しができるようになる
評価基準	発表点30%、提出物40%、授業態度30%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	
関連科目	モチベーション・マネジメント・ホームルームⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	山口　沙織　他1名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 社会人として	授業の流れ・年間スケジュール 働く意義・目的等を知る
2	業界理解	保育の大切さ、現段階で目指す保育者像をイメージする 保育のお仕事にも様々な施設・業種があることを知る
3	就職活動の流れ①	就職活動の流れの概要を知る、就職説明会・園見学・園の探し方を知る
4	就職活動の流れ②	就職活動の規定、求人票の見方、求人票に掲載されているキーワードの意味を知る
5	就職活動の流れ③	公務員と私立の違い、子ども関連企業と保育士の違い、就職活動の仕方について知る
6	自己分析・自分に合う職場探し	自分の対応を知り、それに見合った職場探しのコツを知る
7	PREP法・自己PR作成	PREP法を学び、 自己分析を作成する
8	志望動機作成	志望動機を作成する

9	履歴書作成①	履歴書を作成する
10	履歴書作成②	履歴書を完成させる
11	就職書類	就職活動で必要な書類、連絡方法を学ぶ
12	敬語と身だしなみ	良く使われる敬語と就職活動における身だしなみを学ぶ
13	試験対策(面接)①	面接の仕方、所作等を知る
14	試験対策(面接)②	模擬面接を実施し、フィードバックから改善点を見つける
15	試験対策(面接)③	模擬面接を実施し、フィードバックから改善点を見つける